

結城紬の奥順

女性用洋風衣料を開発

県内の大丸縫製と提携

結城紬(つむぎ)の老舗御商の奥順(茨城県結城市、奥順社長)は、婦人服製造の大丸縫製(群馬県桐生市、大川泰正社長)と提携し、結城紬を使った洋風の女性用衣料を開発した。コートやボンチョなど5種類あり、いずれも袖部分の締め付けをなくし、洋服たけでなく、着物の上からも着られるようにした。10月下旬から都内の百貨店などで販売する。結城紬の用途拡大で、新たな顧客層の掘り起こしを狙う。

奥順の独自ブランド「YUKI OKUJI」(ユキオクジ)で販売する。すでに服飾品のショールを商品化しているが、洋風衣料の販売は今回が初めて。デザインはすべて自社で決め、縫製作業は大丸縫製が担う。群馬県桐生市は絹織物の産地として知られ、服飾関連企業が集積する。大丸縫製は1956年の設立で、女性用衣料の縫製技術に強みを持つことから提携を決めた。

現在、織機をフル稼働させながら、衣料用の幅広いの結城紬を増産している。一定量が出来上がる10月下旬以降、販売を始める。すでに都内など複数の百貨店での販売が決まった。ユキ・オクジブランドのカバンや帽子も順次、ラインアップに加える。

結城紬の用途はこれまでほぼ着物に限られていた。敬老祝い金、商品券で甘楽町、地元商店に還流

日本の電子工学の第一人者で、発明家の安藤博士の功績にちなんで1987年に創設された「安藤博記念学術奨励賞」。茨城大学電気電子工学科助教の鈴木健二さん(29)は、賞状を受け

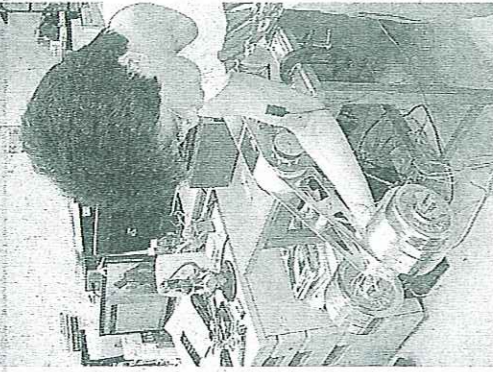


工学部助教 鈴木 健二さん

すき・たけひと 1981年徳島市生まれ。2004年東京工科大学卒業、同大学大学院博士課程を経て、09年茨城大学工学部助教。専攻は電気電子工学。

「たい」

と感動する。栃木県の連携関連企業との共同研究を進める。キャパシタのある日立市は日立製作所グループの工場が集積し、高い技術力を持つ製造業が多い。今後まろ



腕につけたセンサーで微弱な電位信号を検出し、腕の動きをアシストする

人は筋肉を動かす前に、脳から筋肉に微弱な電位信号が出る。ロボットアームはこの信号を皮膚から読み取り、少ない負荷で重たいものを持ち上げられるパワーアシスト機能を持った装置だ。朱准教授らが開発したロボットアームは、ひじ関節を屈曲させる電位信号を測るためのセンサー

低コスト化可能に

前橋工科大 制御センサー少なく

前橋工科大学(前橋市)の朱准教授は、人が筋肉を動かそうとするときに発する微弱な電位信号を検知し、腕力不足を補うパワーアシスト機能を持つ「ロボットアーム」を開発した。ひじなどの関節ごとに必要なセンサーが十組で、従来の同種ロボットより少ないのが特徴。この技術で低コストかつ小型の介護支援ロボットなどの開発が可能になるとしている。

を上腕二頭筋付近に、基準となる電位信号を測るためのセンサーを手首付近につける。従来、パワーアシスト型のロボットでは、ひじ

関節を制御するために20個のセンサーを必要とした。物を持ち上げるときには上腕二頭筋に人が入るのに対し、おろすときには重力が作用するため他の筋肉をほとんど使わないため、朱准教授らは他のセンサーを省略しても制御ができるかと判断した。開発したロボットアームによる実験では、約4kgの重りを持ち上げる

にセンサーの数を減らすため、より低コストで着脱しやすいロボットを開発できる。朱准教授の知能ロボットシステム研究室は福祉や医療、産業分野で利用できる知能ロボットを研究している。ほかに高齢者や歩行困難者の移動を支援する車イス型ロボットや二足歩行ロボットなどを開発している。

グループ店の食品残さ カインズ、堆肥化し販売

ホームセンター大手のカインズ群馬県高崎市、土屋裕雅社長は、スーパーのベジシ(前橋市)などグループ店舗で発生した食品残さを堆肥(たいひ)化する取り組みを始める。17日から3店舗

の野菜の切りくずや野菜の売れ残りなどを回収

埼玉で設備増強 アグリカルチャーセンター

キノコ栽培のアグリカルチャーセンター(埼玉県秩父市、石川真社長)はマイタケやシタケの増産に乗り出す。埼玉県小鹿野町の工場に設備を増強する一方、生育を一括管理する技術



身もの若淵池店長が高崎市ホテルなど事業者向けの会員の店舗で、県産商品を扱うなど、地域密着の姿勢もアピールした。メトロ高崎店は飲食店や

敬老祝い金、商品券で甘楽町、地元商店に還流

群馬県甘楽町は今年度敬老祝い金を商品券で現金を支給していたが、住民が町外で使うことも多く、地域の消費刺激策に足りなかった。商品券にすることで町内で還流させること狙い。敬老祝い金を全額商品券で支給する取り組みは県内では多い。

利根性業

コンピュータさらに身近に

「コンピュータさらに身近なものにしたい。」NITの社内ベンチャー第1号サイバーラボが茨城県ひたちなか市の加藤康之社長は起業の理由をこう語る。具体策として、コンピュータに詳しくなくても用意されたソフトの半完成品を

も増やし、今後5年間で生産量を3割増やす計画だ。主要取引先であるスーパー、ベルクの出荷増などに伴って需要が拡大しており、生産量の少ない品種を中心に増産する。同社の主力はエキタケで年間生産量は約1200t。このほか2工場

宇都宮でも農業に参入 イオンが創設

イオンの全額出資会社、イオンアグリ創造(茨城)が宇都宮市内で農地を借りて野菜の栽培を始めることが16日明らかになった。今秋から農地を確保し、作った野菜はイオングループの「シヤスコ」などで販売する計画。生産履歴のはっきりしたプライベートブランド(PL)自主企画野菜として、消費者にア

入場無料 450名様ご招待

市民公開講座 肌のために~ とろろシキンケア

「マスコ」。問い合わせは 同画部027-3226-7821 ▶群馬県立中央中等教育学校後援会 第8回定期演奏会 23日(午後1時半開演)、高崎市の群馬音楽センターで。演奏曲目は、ショスタコフの「スラフ舞曲」第1集&第2集

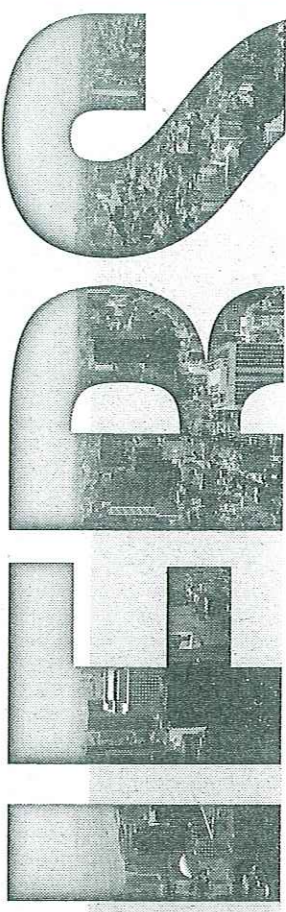
主権：日本経済新聞社 協賛：大成建設、監査法人アヴァンティア(順不同)

NIKKI BUSINESS DAILY FORUM 日経産業新聞 フォーラム2010

入場無料 450名様ご招待

肌のために~ とろろシキンケア

10月17日(金) 19時



※本誌「フォーラム」は予告なく変更になる場合があります。予めご了承ください。

